



# よ ば てんびょう 四つ葉点描

きょういくもくひょう 教育目標 「美しく生きる」



四日市市立中部中学校

令和6年12月4日

第18号

ものごと な と 物事を成し遂げるための「4つのP」

もく てき 目的・やる気・仲間・遊び心  
purpose passion peer play

せんじつ ねんせい 先日、3年生はワイワイ GIKAI を開催しました。市会議員さんに向けて、より良い四日市市にするための提言を見事に発表できました。ある議員からは、「今日は、私たちがゲストで中学生のみなさんがキャストでした。」との言葉をいただきました。事前の取組、当日の運営も含め、まさに「自律・協生・創発」の力を発揮し、キャストとして行動できたワイワイ GIKAI。「よくぞ、ここまで育ったな。」と感心する内容でした。



## なぜ、4つのPが大切なのか

物事を成し遂げるためには、4つのP（目的・やる気・仲間・遊び心）が必要と言われます。様々なイベントに取り組んできた3年生は、納得するのではないかな。

4つのPのうち、「目的」については、説明はいらないと思います。「目的（ゴール）」がわからないと、何を目指せばいいのかわからないし、力を合わせることができずに、バラバラになってしまいますね。

「仲間」については、どうでしょうか？「仲間」と「友達」は違うのでしょうか？

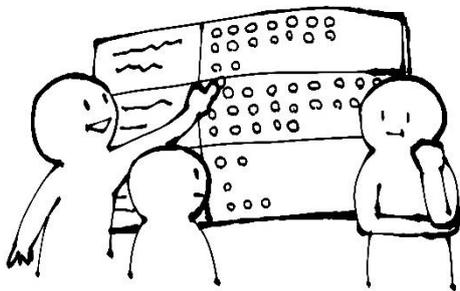
少し前の中学生は、すぐに「好きな者同士がいい！」と言いました。

でも、好きな者同士が集まった高校や好きな者同士が集まった会社はありません。その高校や会社の目的を達成するために、みんなが力を合わせるのです。好き嫌いではありません。様々な考え方の人が力を合わせる…。これが「仲間」です。一人ではできないことも、「仲間」と一緒ならできるかもしれない。もっといえば、そういう「仲間」との関係構築を築いていくことが、大事なんですね。



「遊び心」は、みなさんがイメージする「遊び」とは少し違います。簡単に言うと、「遊んでいるときと同じように、仕事や学びを楽しんで！」という意味です。同志社女子大学・現代子ども学科の名誉教授である上田信行先生は、「本気で物事に取り組んでいるときのワクワクドキドキする心の状態」「どんな状況であっても、自分とその場にいるヒトやモノやコトを最大限に活かして、新しい価値を創り出そうとする姿勢」をプレイフル（遊び心）と定義しています。

## 4つのPは、環境に左右されます



独りでは、マイナスなこと（だって、でも、無理）を考えがち。居心地の悪い集団では、「やる気」も湧いてきませんよね。だからこそ、みんなの力でプレイフルな状態に持っていきましょう。あなたの学級、あなたの学年など、「学ぶ・働く場」をプレイフルにするのが、プレイフルに振る舞うためには大事なのですから。

### さあ、これからは1.2年生の出番です！！

特に、1年生は、人権フォーラムが控えています。中学校では、初めて先輩として活動する機会です。ぜひ、仲間の力を結集して、プレイフルに、キャストとして何ができるかを考えてほしいと思っています。



目的：「何のために（目的）」を知り、与えられた課題を自分事として考える（自律）

やる気：目的が理解でき、見通しがつけば、「やりたい！」という情熱が湧いてくる

仲間：共感してくれる仲間がたくさんになると、一人ではできないことも誰かと一緒に（協生）ならできると自信が生まれ、課題への挑戦に一步踏み出せる

遊び心：遊び感覚で冒険心をもって新しいことに挑戦する（創発）。自分の限界を試し、リスクを取りながら何回もやりなおし、より良いものにしようとする